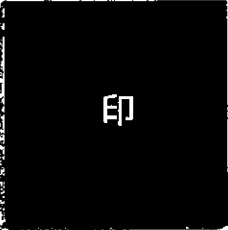




近畿厚生局長 殿

公立大学法人大阪市立大
開設者名 西澤 良記



大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	172.66 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

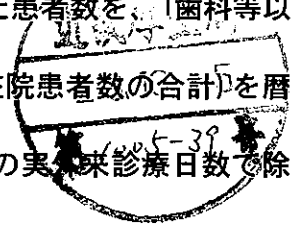
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	421 人	122.6 人	543.6 人	看護補助者	60 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	11 人	臨床検査技師	76 人
薬剤師	36 人	8.7 人	44.7 人	作業療法士	4 人	臨床衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	6 人	その他	人
助産師	32 人	1.5 人	33.5 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧	人
看護師	812 人	64.8 人	876.8 人	臨床工学技士	28 人	医療社会事業従事者	7 人
准看護師	2 人	5.4 人	7.4 人	栄養士	5 人	その他の技術員	42 人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	112 人
管理栄養士	9 人	0.9 人	9.9 人	診療放射線技師	53 人	その他の職員	205 人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	773.8 人	一人	773.8 人
1日当たり平均外来患者数	2,082.4 人	一人	2,082.4 人
1日当たり平均調剤数			1,346.00 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	102人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	0人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	サンドスタチン(オクトレオチド)の筋肉注射・皮下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 特発性偽性腸閉塞に伴う腹部症状について、サンドスタチン50 μ gを6時間おきに皮下注射、またはサンドスタチンLAR20mgもしくは30mgを1ヶ月に1回筋肉注射をすることにより、腹部症状が改善し経口摂取が可能になったという報告がある。			
医療技術名	クローン病以外の炎症性腸疾患に対するレミケード(インフリキシマブ)の使用	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 クローン病以外の炎症性腸疾患(ベーチェット病、潰瘍性大腸炎)について、レミケード5mg/kg/回を0, 2, 6週に投与(点滴)有効であれば8週間隔で維持投与することにより改善が期待できる。			
医療技術名	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大腸腫瘍(大腸腺腫、早期大腸癌) 病変部粘膜下層への局注液注入による粘膜下膨隆を形成後、高周波メスにて直接病変周囲粘膜の切開および粘膜下層の剥離にて病変を切除していく。			
医療技術名	ヘリコバクター・ピロリー一次及び二次除菌療法不成功例に対する三次除菌療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ヘリコバクターピロリ感染を伴う胃・十二指腸潰瘍と診断され、一次及び二次除菌療法を受けたにもかかわらず除菌不成功と判断された症例にハリエツト10mg・サワシリン750mg・クレビット300mgを1日2回10日間服用する。			
医療技術名	多剤耐性B型肝炎ウイルスに対するテノフォビル投与の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 現在保険適応である薬剤に耐性を示すB型肝炎ウイルス感染例を対象とし、ビリアード1錠を1日1回1年間継続服用をする。			
医療技術名	C型肝炎に対するpegインターフェロン・リハビリン併用療法治療時の貧血に対するエポエチンベータ投与	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 C型慢性肝炎に対するpegインターフェロン・リハビリン併用療法治療時の貧血 週1回エポエチンベータ(遺伝子組み換え、エポジン注シリンジ12,000、中外製薬)36,000単位の皮下投与を12週間行う。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI室で病巣周囲を4分割した部位にTc製剤1mCiを皮下注射する。RI室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。 手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット2.5%1mlを併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する腫瘍抗原ペプチドを用いた経皮免疫療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫(STAGE I～IV) ワクチン貼付部位の皮膚角質を剥離する。同部位にワクチンを貼付する。この手技を月1回で10回繰り返す。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする、病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			

医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技は終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度である。</p>			
医療技術名	腫瘍性骨病変および骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。</p> <p>局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。</p> <p>治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおよそ1週間である。</p>			
医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	9人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。</p>			
医療技術名	軟部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。</p> <p>局所麻酔後、CTガイドで電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1~2時間程度となり入院期間は7~10日である。</p>			
医療技術名	副甲状腺機能亢進症に対する放射線同位元素を用いたナビゲーション手術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>副甲状腺機能亢進症(再発性・持続性・異所性を含む)</p> <p>術前検査にて放射性同位元素(RI:99mTc-MIBI)の集積が確認された病巣を切除・摘出する際し、</p> <p>執刀2時間前にRIを投与し、術中ガイガーカウンターを用いて病巣を検索する。切除、摘出後に放射線活性の消失を確認。</p>			
医療技術名	切除不能大腸悪性狭窄に対するステント留置術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>切除不能大腸悪性疾患により腸閉塞症状を呈する状態について、大腸内視鏡下、透視下に狭窄部を確認してステントを留置する。従来このような状態の症例に対しては人工肛門造設が必要であったが本手技については非侵襲的に自然排便が可能となる。</p>			
医療技術名	肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術の補助療法としての肝ラッピング術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>肝周囲組織より栄養動脈が発達した肝細胞癌症例</p> <p>全身麻酔を施行し、開腹下あるいは腹腔鏡視下に肝腫瘍と周囲臓器を剥離し、栄養動脈を遮断、さらに同部にゴアテックスシートを留置することにより周囲臓器からの腫瘍への血管新生を遮断する。</p>			

医療技術名	経皮経肝門脈枝塞栓術	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>薬切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌</p> <p>血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、フィブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。</p>			
医療技術名	頭蓋内頸動脈および椎骨動脈病変に対するステントを用いた血管形成術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>頭蓋内頸動脈及び椎骨動脈狭窄病変で外科的治療が困難であると思われる症例についてバルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術にステント留置を併用する。</p>			
医療技術名	蝶形骨誘導電極留置術	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>難治性てんかん</p> <p>局所麻酔下に経皮的に両側側頭下窩(骨下)に蝶形骨誘導電極を挿入した上で頭脳電位を測定しててんかん焦点診断を行う。</p>			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	9人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例</p> <p>1) 2) 3) の場合、移植2週間前と移植当日にリツキシマブ150mg/m²を点滴静注 4) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にて改善しない症例に対して150mg/m²を単回投与する。</p>			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例</p> <p>腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4-6回必要となることがある。</p>			
医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>1) 既存抗体陽性腎移植症例 3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例</p> <p>1) 2) の場合、移植前に0.1~0.5g/kgを点滴静注 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にて改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する</p>			
医療技術名	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	2人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>前立腺癌</p> <p>日本Endourology and ESWL学会(泌尿器腹腔鏡学会)による施行基準に準じて施行。</p>			
医療技術名	一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る)に係るものに限る)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>双胎間輸血症候群</p> <p>双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠(妊娠十六週以上二十六週以下のものに限る。)</p> <p>双胎間輸血症候群は、一絨毛膜性双胎妊娠において、胎盤表面の双胎間血管吻合を介して一方の児(供血児)から他方(受血児)へと血流がシフトすることにより、羊水過小・羊水過多を生じるもので、供血児・受血児とも死亡率が高くなり、中枢神経障害を残す率も高い。これに対し、胎盤表面の吻合血管を内視鏡により同定し、レーザー光により焼灼して凝固させ児の予後を改善させる。</p>			

医療技術名	アバスチン硝子体内注射	取扱患者数	122人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について</p> <p>手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。</p>			
医療技術名	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>白内障</p> <p>手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にて超音波乳化吸引術を施行し、多焦点眼内レンズを挿入する。</p>			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA)網膜下注射	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤</p> <p>手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。</p>			
医療技術名	免疫担当細胞解析法による同種血幹細胞移植後の移植片対宿主病等の診断と免疫抑制剤の調節	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>同種造血幹細胞移植施行症例</p> <p>「末梢血中免疫担当細胞8種類の同定」</p> <p>同種造血幹細胞移植後、定期的に(移植後14日、30日、60日、90日、その他必要に応じて)末梢血約30mlを採取して単核球分離後、8種類の免疫担当細胞(CD4・CD8・Th2・Treg・gdT・DC1・DC2)をフローサイトメーターで同定する。各免疫担当細胞の比率を詳細に解析することで移植片対宿主病その他の移植後重篤合併症の早期診断と鑑別を行い、免疫抑制剤の増減調整の指標となる。</p>			
医療技術名	同種血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性の検索	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>急性移植片対宿主病(GVHD)</p> <p>造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II以上の急性GVHDを発症した患者。組織学的あるいは臨床症状よりgrade II以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40キロ以上60キロ未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。一日投与量を12時間ごとに内服する。</p>			
医療技術名	ガンシクロビル抵抗性サイトメガロウイルス感染症に対するホスカルナットの有効性の検討	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>ガンシクロビル(デノシン)に抵抗性の、同種移植後患者でのサイトメガロウイルス感染症</p> <p>ガンシクロビルの治療によっても改善しない、サイトメガロウイルス感染症患者に対して、ホスカルネットナトリウム水和物として1回体重1kgあたり90mgを2時間以上かけて1日1回点滴静注する</p>			
医療技術名	骨髄異形成症候群(MDS)に伴う治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病(治療抵抗性ITP)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病</p> <p>外来および入院にてリツキシマブ375mg/m² 点滴静注 週に1回投与 4週間 計4回行う。</p>			

医療技術名	肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対するトロンボジェニンの有効性と安全性の検討	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>播種性血管内凝固症候群</p> <p>治療抵抗性の肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対してリコメゾリンを点滴投与</p>			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の拒絶予防のためのヘントスタチン併用ドナーリンパ球輸注(DLI)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>成人T細胞性白血病</p> <p>同種造血幹細胞移植後、T細胞ドナーキメラの低下を認め、重症再生不良性貧血再発を来し、移植片拒絶の危険性の高い症例に対して、免疫抑制剤の変更やドナーリンパ球輸注(DLI)単独療法では十分な効果が認められない症例に対し、免疫抑制効果の強いヘントスタチン(コホロン)併用のドナーリンパ球輸注(DLI)を施行し、その効果と安全性を評価する。</p>			
医療技術名	CIDPに対する免疫抑制剤(ネオオーラル)を用いた治療	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>CIDP(Chronic inflamartory demyelinating polyradiculoneuropathy) 通常の治療に反応の乏しい患者</p> <p>ネオオーラル50mg・10mgを1年間、病棟及び外来で内服もしくは点滴</p>			
医療技術名	MIGB心筋シンチを用いた認知症患者の鑑別診断	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>認知症</p> <p>核医学検査室にて患者にミオMIGB- I 123注射液を静注後、ガンマカメラにて撮影</p>			
医療技術名	重症急性膵炎に対する膵酵素阻害剤・抗生物質持続動注療法	取扱患者数	0人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>発症後1週間以内で、造影CTで膵壊死を認める患者や特に重症な患者(厚生労働省基準の重症度スコア9点以上等)</p> <p>投与方法:膵壊死部を灌流する動脈から持続動注</p> <p>投与量 :フサン(50mg/バイアル)を1日4バイアル、11時間ずつ2回持続投与</p> <p>およびチェナム(500mg/バイアル)を1日2~4バイアル、1時間ずつ2回持続投与 投与期間:約5日間</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	93人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	47人	・原発性胆汁性肝硬変	89人
・全身性エリテマトーデス	252人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	69人
・再生不良性貧血	73人	・混合性結合組織病	34人
・サルコイドーシス	67人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	7人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	132人	・網膜色素変性症	21人
・特発性血小板減少性紫斑病	109人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	33人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	572人	・神経線維腫症	42人
・大動脈炎症候群	20人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	25人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	45人	・ライソゾーム病	24人
・クローン病	318人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	15人	・脊髄性筋委縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	123人	・球脊髄性筋委縮症	0人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	80人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	20人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	48人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	16人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	66人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る)	・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索
・膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に2回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 56例 / 部検率 18.90%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
造血幹細胞移植後の消化管GVHDにおける小腸病変の検討	町田 浩久	総合診療センター	500,000	補 財団法人内視鏡 委 医学研究振興財 団
血液酸化ストレスマーカーと画像診断による心筋梗塞・脳梗塞発症予知に関する研究	江原 省一	循環器内科	520,000	補 文科研 委 基盤研究C
慢性心不全における thrombospondin のβ・遮断薬反応性への関与と機序	竹本 恭彦	循環器内科	650,000	補 文科研 委 基盤研究C
日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者において積極的脂質低下・降圧療法の妥当性を問うランダム化臨床試験および観察研究	島田 健永	循環器内科	2,000,000	補 厚生労働省 委
アンジオポエチンを介する血管新生の分子機構の解明とその喘息治療への応用	金澤 博	呼吸器内科	1,430,000	補 文科研 委 基盤研究C
喘息増悪因子としてのアディポサイトカインと新たな治療標的の設定	浅井 一久	呼吸器内科	1,690,000	補 文科研 委 若手研究B
小細胞肺癌患者血漿でみるトポイソメラーゼ阻害剤の遺伝子作用部位への直接効果の検出	木村 達郎	呼吸器内科	1,430,000	補 文科研 委 若手研究B
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	工藤 新三	呼吸器内科	700,000	補 がん臨床研究事 委 業
レプチンの膵β細胞機能と量における役割	森岡 与明	生活習慣病・糖尿病センター	1,950,000	補 文科研 委 若手研究B
副甲状腺細胞内における副甲状腺ホルモン断片化調節機構の研究	稲葉 雅章	生活習慣病・糖尿病センター	1,430,000	補 文科研 委 基盤研究C
メタボリックシンドロームにおける頸動脈硬化症の2元的特性に関する臨床的意義の確立	絵本 正憲	生活習慣病・糖尿病センター	1,300,000	補 文科研 委 基盤研究C
ナノスキャホールドによる高有効性・低侵襲性ハイブリッド型血管新生療法の開発	福本 真也	生活習慣病・糖尿病センター	1,170,000	補 文科研 委 基盤研究C
自律神経機能異常を伴い慢性的な疲労を訴える患者に対する客観的な疲労診断法の確立と慢性疲労診断指針の作成	小山 英則	生活習慣病・糖尿病センター	4,800,000	補 障害者対策総合 委 研究事業
終末糖化産物受容体及びその可溶性受容体を標的とした肥満・動脈硬化の制御	小山 英則	生活習慣病・糖尿病センター	520,000	補 文科研 委 基盤研究C
終末糖化産物受容体及びその可溶性受容体を標的とした肥満・動脈硬化の制御	福本 真也	生活習慣病・糖尿病センター	130,000	補 文科研 委 基盤研究C
終末糖化産物受容体及びその可溶性受容体を標的とした肥満・動脈硬化の制御	田中 新二	生活習慣病・糖尿病センター	130,000	補 文科研 委 基盤研究C
肥満・2型糖尿病におけるレプチンと膵β細胞障害との関係	森岡 与明	生活習慣病・糖尿病センター	1,500,000	補 文科研 委 基盤研究C
肥満・3型糖尿病におけるレプチンと膵β細胞障害との関係の検討	森岡 与明	生活習慣病・糖尿病センター	1,000,000	補 財団法人大阪難 委 病研究財団

小計
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
副甲状腺の腫瘍化機構とカルシウム感受容体の意義	今西 康雄	骨・リウマチ内科	780,000	補 文科研 委 基盤研究C
サイトグロビンノックアウトマウスを用いた肝硬変・肝癌病態解析	河田 則文	肝胆膵内科	2,340,000	補 文科研 委 基盤研究B
C型慢性肝炎の肝内マイクロRNA発現とIFN・リバビリンの治療効果	榎本 大	肝胆膵内科	1,430,000	補 文科研 委 基盤研究C
癌発生におけるサイトグロビン発現間葉系細胞の関与	河田 則文	肝胆膵内科	1,900,000	補 挑戦的萌芽研究 委
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	河田 則文	肝胆膵内科	200,000	補 がん臨床研究事業 委
血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	河田 則文	肝胆膵内科	800,000	補 肝炎等克服緊急 委 対策研究事業
脂肪性肝炎の病態形成におけるマクロファージスカベンジャー受容体の役割	藤井 英樹	肝胆膵内科	1,040,000	補 文科研 委 若手研究B
インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用	河田 則文	肝胆膵内科	13,455,000	補 肝炎等克服緊急 委 対策研究事業
データマイニング手法を用いた効果的なC型肝炎治療法に関する研究	田守 昭博	肝胆膵内科	800,000	補 肝炎等克服緊急 委 対策研究事業
スキルス胃癌の病態と治療抵抗性の克服—癌幹細胞を標的として—	平川 弘聖	消化器外科	5,980,000	補 文科研 委 若手研究B
甲状腺未分化癌細胞株の樹立と分子標的薬剤併用による抗癌剤耐性克服の基礎検討	小野田 尚佳	消化器外科	1,430,000	補 文科研 委 基盤研究C
ジフテリアトキシン融合蛋白とPSKの消化器癌に対するペプチドワクチン療法への応用	田中 浩明	消化器外科	1,430,000	補 文科研 委 基盤研究C
膀胱癌に対するフッ化ピリミジン系抗癌剤と分子標的治療薬の相乗効果の検討	仲田 文造	消化器外科	2,000,000	補 財団法人藤井節郎 委 記念大阪基礎医学 研究奨励会
原発性肺腺癌の早期診断・治療標的の開発をめざした戦略的プロテオーム解析	西山 典利	呼吸器外科	1,820,000	補 文科研 委 基盤研究C
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	久保 正二	肝胆膵外科	200,000	補 がん臨床研究事業 委
糖尿病におけるストレス応答性UCP2発現低下による活性酸素産生亢進と対策法の確立	竹村 茂一	肝胆膵外科	390,000	補 文科研 委 基盤研究C
多面的な分子生物学的解析による非B非C型肝細胞癌発癌機構の解明と臨床応用	久保 正二	肝胆膵外科	780,000	補 文科研 委 基盤研究C
食道癌術後患者におけるEPA(エイコサペンタエン酸)GLA	大杉 治司	肝胆膵外科	1,000,000	補 日本静脈経腸栄養 委 学会助成金
遺伝性神経疾患における細胞治療の長期効果に対する免疫関与に関する研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	780,000	補 文科研 委 基盤研究C

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
マイクロベットを用いた低酸素性虚血性脳症の病態解明と治療法に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	780,000	補 文科研 委 基盤研究C
グルタメイト脱水素酵素異常症における高アンモニア血症の病態解明と治療法の開発	岡野 善行	小児科・新生児科	1,300,000	補 文科研 委 基盤研究C
先天性ケトン体代謝異常症（HMG-CoA合成酵素欠損症、HMG-CoAリアーゼ欠損症、β-ケトチオラーゼ欠損症、SCOT欠損症）の発症形態と患者数の把握、診断治療指針に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,000,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と新しい治療法の開発に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	16,200,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
シトリン欠損症の実態調査と診断方法と治療法の開発	岡野 善行	小児科・新生児科	17,250,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
ライソゾーム病（ファブリ病含む）に関する調査研究	田中 あけみ	小児科・新生児科	2,300,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と新しい治療法の開発に関する研究	服部 英司	小児科・新生児科	400,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
新規治療法が開発された小児希少難病の疫学調査と長期フォローアップ体制の確立	田中 あけみ	小児科・新生児科	2,000,000	補 医療技術実用化 委 総合研究事業
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と新しい治療法の開発に関する研究	藤岡 弘季	小児科・新生児科	400,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
現行マスキングの問題解決に関する研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	20,000	補 厚生労働省 委
先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築	新宅 治夫	小児科・新生児科	1,000,000	補 国立成育医療研 委 究センター
乳幼児のぜん息ハイリスク群を対象とした保健指導の実践および評価手法に関する調査研究	新宅 治夫	小児科・新生児科	6,400,000	補 独立行政法人・ 委 環境再生保全機構
シトリン欠損症治療へのピルビン酸ナトリウムの応用	岡野 善行	小児科・新生児科	868,000	補 科学技術振興機 委 構
慢性期および急性期の統合失調症のQOLに関する研究	谷 宗英	神経精神科	650,000	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
摂食障害におけるアジポサイトカイン、脳由来神経栄養因子。短期的予後との関連	永田 利彦	神経精神科	1,170,000	補 文科研 委 基盤研究C
低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究	露口 尚弘	神経精神科	650,000	補 文科研 委 基盤研究C
低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究	露口 尚弘	神経精神科	750,000	補 文科研 委 基盤研究C
iPS細胞を用いたハイブリッド型人工神経による末梢神経欠損部の架橋実験	高松 聖仁	整形外科	1,300,000	補 文科研 委 基盤研究C
大腸菌由来骨形成蛋白とコンピューター支援技術を用いた骨欠損部再生修復システムの創生	岩城 啓好	整形外科	1,820,000	補 文科研 委 基盤研究C

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
パラバイオシスラットを利用した骨軟骨欠損修復細胞由来の解明と組織修復への応用	脇谷 滋之	整形外科	1,690,000	補 文科研 委 基盤研究C
自家骨移植による局所的骨再生メカニズムの解明	中村 博亮	整形外科	1,950,000	補 文科研 委 基盤研究C
生体吸収性ポリマーを用いたSiRNA導入法の開発-骨再生への応用-	鈴木 亨暢	整形外科	2,470,000	補 文科研 委 若手研究B
性ホルモンの軟骨代謝への関与の解析、及びその組織修復への応用	箕田 行秀	整形外科	1,690,000	補 文科研 委 若手研究B
黄色靭帯肥厚の進行予防による新しい腰部脊柱管狭窄症治療法の開発	江口 佳孝	整形外科	1,430,000	補 文科研 委 若手研究B
骨粗鬆症椎体骨折に対する低侵襲治療法の開発	中村 博亮	整形外科	2,000,000	補 長寿科学総合研究事業 委
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	中村 博亮	整形外科	1,200,000	補 難治性疾患克服研究事業 委
βアミロイドPETにおけるアミロイド陰性認知症患者の臨床的特徴に関する研究	嶋田 裕之	老年科・神経内科	1,560,000	補 文科研 委 基盤研究C
早期認知症患者におけるアミロイドPET検査の臨床的有用性の検討	三木 隆己	老年科・神経内科	4,160,000	補 文科研 委 基盤研究B
アミロイドPET所見と神経心理学的検査に基づいた早期認知症患者背景疾患の分析	嶋田 裕之	老年科・神経内科	520,000	補 文科研 委 基盤研究C
アミロイドPET所見と神経心理学的検査に基づいた早期認知症患者背景疾患の分析	安宅 鈴香	老年科・神経内科	260,000	補 文科研 委 基盤研究C
認知症も根絶に向けた研究拠点づくりを目指した総合研究	三木 隆己	老年科・神経内科	3,180,000	補 戦略的研究費 委
ブタ正常肺及び家兎腫瘍肺モデルのラジオ波凝固時における組織内温度分布の測定	松岡 利幸	放射線科	910,000	補 文科研 委 基盤研究C
脳磁図(MEG)を用いた非侵襲的脳虚血域画像化技術の開発と臨床応用	坂本 真一	放射線科	2,860,000	補 文科研 委 基盤研究C
家兎肺腫瘍モデルに対するラジオ波凝固とGM-CSF局所注入による免疫賦活療法	大隈 智尚	放射線科	1,430,000	補 文科研 委 若手研究B
部分的脾動脈塞栓術(PSE)を用いた肝臓再生～自家骨髄幹細胞移植と関連して～	山本 晃	放射線科	2,080,000	補 文科研 委 若手研究B
高磁場MR装置による磁化率強調画像を応用した新しい髄鞘イメージングの開発・応用	三木 幸雄	放射線科	2,808,000	補 文科研 委 基盤研究B
麻酔薬の作用発現調節機構-脳内薬物動態と脳波、交感神経受容体との関連	小田 裕	麻酔科	1,300,000	補 文科研 委 基盤研究C
中枢性疼痛の発現機序-脳内交感神経受容体との関連の解明、治療への応用に向けて	高橋 陵太	麻酔科	1,170,000	補 文科研 委 若手研究B

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ニコチンによる術後鎮痛-脊髄後角インビボパッチクランプ法を用いた検討	森 隆	麻酔科	1,040,000	補 文科研 委 基盤研究C
糖尿病性神経障害における下行性疼痛抑制系の脳内モノアミン動態の解明	舟尾 友晴	麻酔科	1,430,000	補 文科研 委 若手研究B
局所麻酔薬の抗炎症作用の解明-炎症性疼痛の治療への応用を目指して	長谷 一郎	麻酔科	1,170,000	補 文科研 委 若手研究B
局所麻酔薬の中樞神経作用の検討-脳波への影響および併用薬物による変化について	田中 克明	麻酔科	1,170,000	補 文科研 委 若手研究B
ホルモン抵抗性前立腺癌の進展の機序	玉田 聡	泌尿器科	260,000	補 文科研 委 若手研究B
前立腺癌発癌機序における活性酸素関連遺伝子の多型解析	井口 太郎	泌尿器科	1,560,000	補 文科研 委 若手研究B
泌尿器科疾患におけるCKDコホート研究	長沼 俊秀	泌尿器科	1,000,000	補 財団法人大阪難 委 病研究財団
ヘミデスモゾーム構成タンパクのリクルートおよびリサイクルの解明	小澤 俊幸	形成外科	2,600,000	補 文科研 委 若手研究B
同種末梢血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	日野 雅之	血液内科	700,000	補 免疫アレルギー疾 委 患等予防・治療研 究事業
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤エビデンスの確立に関する研究	中前 博久	血液内科	1,000,000	補 がん臨床研究事 委 業
造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病、非感染性肺合併症の予測、予防に関する研究	中前 博久	血液内科	1,170,000	補 文科研 委 基盤研究C
アミロイドイメージングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する多施設大規模臨床研究	塩見 進	核医学科	1,100,000	補 認知症対策総合 委 研究事業
門脈血行異常症に関する調査研究	塩見 進	核医学科	800,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
白斑・白皮症の本邦における診断基準及び治療指針の確立	深井 和吉	皮膚科	800,000	補 難治性疾患克服 委 研究事業
スキルス胃癌に対する分子標的治療薬の開発および抗癌剤との併用効果の検討	八代 正和	腫瘍分野	1,300,000	補 文科研 委 基盤研究C
血管石灰化の進展におけるWntシグナル経路の役割に関する研究	塩井 淳	循環器血管	910,000	補 文科研 委 基盤研究C
				補 委
				補 委
				補 委

小計
16小計
0計
91

OK

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
-------	-------	------	----	----------

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Vessels. 2011 Jan 8. (2011年1月)	Utility of myocardial fractional flow reserve for prediction of restenosis following sirolimus-eluting stent implantation.	葭山 稔	循環器内科
Int J Cardiol. 2010 Dec 29. (2010年12月)	Circadian variation in coronary flow velocity reserve and its relation to α 1-sympathetic activity in humans.	葭山 稔	循環器内科
Heart Vessels. 2010 Dec 23. (2010年12月)	Absence of left ventricular concentric hypertrophy: a prerequisite for zero coronary calcium score.	葭山 稔	循環器内科
Clin Med Insights Cardiol. 2010 Oct 13;4:95-8. (2010年10月)	Usefulness of cardiac computed tomography in the diagnosis of prosthetic coronary artery graft with interposition procedure.	葭山 稔	循環器内科
Environ Health Insights. 2010 Sep 23;4:65-9. (2010年9月)	The effect of the gravitation of the moon on frequency of births. Environ Health Insights.	葭山 稔	循環器内科
Heart. 2010 Nov;96(21):1716-22. (2010年11月)	Increased expression and plasma levels of myeloperoxidase are closely related to the presence of angiographically-detected complex lesion morphology in unstable angina.	葭山 稔	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010 Nov 27;17(11):1115-21. (2010年11月)	Neopterin and atherosclerotic plaque instability in coronary and carotid arteries.	葭山 稔	循環器内科
J Atheroscler Thromb. 2010 Jul 30;17(7):675-87. (2010年7月)	A decline in platelet activation and inflammatory cell infiltration is associated with the phenotypic redifferentiation of neointimal smooth muscle cells after bare-metal stent implantation in acute coronary syndrome.	葭山 稔	循環器内科
J Am Soc Echocardiogr. 2010 May;23(5):553-9. (2010年5月)	Detection of restenosis after percutaneous coronary intervention in three major coronary arteries by transthoracic Doppler echocardiography.	葭山 稔	循環器内科
Am Heart J. 2010 Apr;159(4):620-6. (2010年4月)	"Passive exercise" using whole body periodic acceleration: effects on coronary microcirculation.	葭山 稔	循環器内科
Am J Cardiol. 2010 Apr 1;105(7):922-9. (2010年4月)	Relation of elevated levels of plasma myeloperoxidase to impaired myocardial microcirculation after reperfusion in patients with acute myocardial infarction.	葭山 稔	循環器内科
Ann Thorac Surg. 2010 Apr;89(4):1284-6. (2010年4月)	Platypnea-orthodeoxia diagnosed by sitting transesophageal echocardiography.	葭山 稔	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol. 2010 Jun 1;21(6):688-96. (2010年6月)	Conduction delay in right ventricle as a marker for identifying high-risk patients with Brugada syndrome.	葭山 稔	循環器内科
Journal of Asthma47(4):400-406 (2010年5月)	Validity of measurement of two specific biomarkers for the assessment of small airways inflammation in asthma.	金澤博	呼吸器内科
Clinical science 119(3):143-149 (2010年5月)	Increased levels of N(epsilon)-(carboxymethyl)lysine in epithelial lining fluid from peripheral airways in patients with chronic obstructive pulmonary disease: a pilot study.	金澤博	呼吸器内科
Journal of Clinical Oncology 28(36):5240-5246 (2010年12月)	Phase III trial comparing oral S-1 plus carboplatin with paclitaxel plus carboplatin in chemotherapy-naïve patients with advanced non-small-cell lung cancer: results of a west Japan oncology group study.	工藤新三	呼吸器内科
Japanese journal of clinical oncology 41(1):25-31 (2011年1月)	A phase II study of cisplatin and irinotecan as induction chemotherapy followed by concomitant thoracic radiotherapy with weekly low-dose irinotecan in unresectable, stage III, non-small cell lung cancer: JCOG 9706.	工藤新三	呼吸器内科
Clinical Medicine Insights: Oncology 5:23-34 (2011年3月)	Review of the management of relapsed small-cell lung cancer with amrubicin hydrochloride.	木村達郎	呼吸器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肝臓 51(8)454-456 (2010年8月)	HBV関連クリオグロブリン血症における抗ホスファチジルセリン・プロトンピン複合体抗体の意義	根来 伸夫	膠原病内科
日本透析医学会雑誌 43(11)945-951 (2010年11月)	フアブリー病透析患者における酵素補充療法の治療効果と、アガルシダーゼアルファの体内動態について	根来 伸夫	膠原病内科
Obesity, 19(2):276-282 (2010年8月)	Different impacts of neck circumference and visceral obesity on the severity of obstructive sleep apnea syndrome	福本真也	生活習慣病・糖尿病センター
Diabetes Res Clin Pract. 91(3)316-320 (2011年1月)	Association of serum TRAIL levels with atherosclerosis in patients with type 2 diabetes mellitus	森克仁	生活習慣病・糖尿病センター
Osteoporos Int22(3)923-930 (2010年5月)	Reduction of whole PTH/intact PTH ratio as a predictor of bone metabolism in cinacalcet treatment of hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism	稲葉雅章	骨リウマチ内科
Biol Trace Elem Res. 10.1007/s12011-010-8948-y (2011年1月)	Trace Elements in the Hair of Hemodialysis Patients	石村栄治	腎臓内科学
Gastrointest Endosc. 71(6):1094-6. (2010年06月)	Photodynamic diagnosis of endoscopically invisible flat dysplasia in patients with ulcerative colitis by visualization using local 5-aminolevulinic acid-induced photosensitization.	渡辺憲治	消化器内科
J Clin Biochem Nutr. 48(2):149-53. (2011年03月)	Rebamipide, a mucoprotective drug, inhibits NSAIDs-induced gastric mucosal injury: possible involvement in the downregulation of 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase	谷川徹也	消化器内科
J Clin Biochem Nutr. 48(2):117-21. (2011年03月)	Mitochondrial disorders in NSAIDs-induced small bowel injury.	渡辺俊雄	消化器内科
J Clin Gastroenterol. Feb 22 (2011年02月)	Risk Factors Associated With Dyspepsia in Japanese Adults.	藤原靖弘	消化器内科
Digestion. 83(3):153-60. (2011年03月)	Gastrointestinal bleeding after percutaneous coronary intervention.	谷川徹也	消化器内科
Dig Endosc. Suppl 1:143-9 (2011年03月)	Endoscopic differential diagnosis between ulcerative colitis-associated neoplasia and sporadic neoplasia in surveillance colonoscopy using narrow band imaging.	渡辺憲治	消化器内科
Ulcer Research 37: p12-14 (2010年5月)	NSAIDs起因性小腸潰瘍における腸内細菌の役割とprobioticsの予防効果に関する基礎的検討	渡辺俊雄	消化器内科
消化器の臨床 13: 169-173 (2010年4月)	NSAIDs・アスピリンによる粘膜傷害のマネージメントー小腸。マネージメントの実際	渡辺俊雄	消化器内科
大阪府内科医会会誌 19: 1-6 (2010年4月)	NSAIDおよび低用量アスピリン製剤による消化管粘膜傷害のリスクとマネージメント	渡辺俊雄	消化器内科
消化器内科 51: 36-40 (2010年7月)	特集:アスピリンとNSAID併用による消化管粘膜傷害。NSAIDと抗リウマチ薬の併用における小腸傷害の発症頻度	渡辺俊雄	消化器内科
G.I. Research, 18: p33-38 (2010年12月)	特集:見えてきた小腸病変。②薬剤起因性病変:アスピリンを含む抗血小板薬	渡辺俊雄	消化器内科
消化器の臨床13(4):440-444 (2010年8月)	GERDの長期経過と維持療法の行い方	藤原靖弘	消化器内科
臨床消化器内科 25(7):838-843 (2010年5月)	十二指腸・小腸の画像診断 小腸の内視鏡診断(カプセル内視鏡とバルーン内視鏡)	渡辺憲治	消化器内科
IBD Research 4(3):247-251 (2010年9月)	IBD診療におけるカプセル内視鏡検査の最前線	渡辺憲治	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内科学会雑誌 100(1):58-64 (2011年1月)	診療の進歩 出血性病変 顕性	渡辺憲治	消化器内科
Mebio 28(3):69-75 (2011年3月)	炎症性腸疾患診断におけるカプセル内視鏡の意義	渡辺憲治	消化器内科
消化器治療薬の選び方・使い方 Page40-44 (2010年08月)	第1部薬剤編 1)消化管疾患薬 6. 粘膜防御因子増強薬	藤原靖弘	消化器内科
消化器治療薬の選び方・使い方 Page169-172 (2010年08月)	第2部疾患編 1)消化管疾患 5. 小腸潰瘍 症例腸管Behcet病	山上博一	消化器内科
監修 (2011年03月)	レジデントコンパス消化器病編	渡辺俊雄	消化器内科
消化器治療薬の選び方・使い方 Page37-39 (2010年08月)	プロスタグランジン製剤	谷川徹也	消化器内科
重篤副作用疾患別対応マニュアル 第4集 日本医薬情報センター、Page121-136 (2010年07月)	重度の下痢	渡辺憲治	消化器内科
画像強調観察による内視鏡診断アトラス Page326-327 (2010年05月)	小腸カプセルの画像強調観察	渡辺憲治	消化器内科
ここが知りたい!!偽膜性腸炎/CDI Page99-104 (2011年03月)	偽膜性腸炎/CDIに対処する(治療と予防のアウトライン)	鎌田紀子	消化器内科
炎症性腸疾患を日常診療で診る Page196-199 (2010年12月)	クローン病 Strategy 2	渡辺憲治	消化器内科
画像強調観察による内視鏡診断アトラス Page233-235 (2010年05月)	表面隆起型早期癌	渡辺憲治	消化器内科
画像強調観察による内視鏡診断アトラス Page254-256 (2010年05月)	UC関連dysplasia	渡辺憲治	消化器内科
スキルアップ大腸内視鏡 Page258-261 (2010年04月)	Colitic cancer/dysplasia (1)	渡辺憲治	消化器内科
CC Japan 56:30-31 (2010年06月)	IBDと免疫調節剤	渡辺憲治	消化器内科
Medicament News 2035, 5-7 (2010年12月)	FDの治療～脳腸相関からみたアプローチ～	富永和作	消化器内科
Pancreas (2010年10月)	Inhibition of pancreatic stellate cell activation by halofuginone prevents pancreatic xenograft tumor development.	河田 則文	肝胆膵内科
Am J Pathology (2010年7月)	A human-type nonalcoholic steatohepatitis model with advanced fibrosis in rabbits.	河田 則文	肝胆膵内科
Hepatology Research (2010年9月)	Usefulness of transient elastography for assessment of liver fibrosis in chronic hepatitis B: Regression of liver stiffness during entecavir therapy.	榎本 大	肝胆膵内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J cell physiology (2010年12月)	Down-regulation of cyclin E1 expression by microRNA-195 accounts for interferon- β -induced inhibition of hepatic stellate cell proliferation.	河田 則文	肝胆膵内科
Hepato Res. 2010;40:295-303.(2010年4月)	Histological findings in the livers of patients with neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency.	岡野善行	小児科
J Gastroenterol. 2010; 45: 683-691.(2010年7月)	Wireless capsule endoscopy in pediatric patients: the first series from Japan.	岡野善行	小児科
Pediatr Internat. 2010; 52: e167-170(2010年6月)	Protein-losing gastropathy in a child and Guillain-Barré syndrome in a father caused by intrafamilial infection.	岡野善行	小児科
Pocket精神医学pp. 231-238(2010年、9月)	摂食障害	切池信夫	神経精神科
医学書院(2010年5月)	摂食障害の認知行動療法	切池信夫	神経精神科
Expertsによる強迫性障害(OCD)治療ブック. pp. 123-136(2010年6月)	OCDに対する入院治療～その適用や内容、注意点について～	松永寿人	神経精神科
摂食障害の認知行動療法.pp. 288-304(2010年5月)	複雑な症例と併存症	松永寿人	神経精神科
産業精神保健18(2):101-103 (2010年5月)	主治医の行う認知行動療法とそれを踏まえた職場対応の重要性	井上幸紀	神経精神科
精神神経学雑誌;111: 816-822 (2010年9月)	DSM-Vに向けた強迫性障害(obsessive compulsive disorder)の動向	松永寿人	神経精神科
産業精神保健;18(2):132-137(2010年、5月)	不眠症に対する認知行動療法	岩崎進一	神経精神科
日本臨床(0047-1852)1425-1429(2010年8月)	薬物依存症の現状と課題	切池信夫	神経精神科
精神科(1347-4790)16巻5号、418-422 (2010年5月)	「この10年間で精神科治療はどう変わったか」摂食障害	切池信夫	神経精神科
Journal of Dermatological Science 58(1):43-54 (2010年4月)	Laminin-511, inducer of hair growth, is down-regulated and its suppressor in hair growth, laminin-332 up-regulated in chemotherapy-induced alopecia	小林 裕美	皮膚科
Journal of Dermatological Science 58(1):55-63 (2010年4月)	Spatial and temporal control of laminin-511 and -332 expressions during catagen	小林 裕美	皮膚科
Journal of Investigative Dermatology 130(6):1624-1635 (2010年6月)	Dynamic relationship of focal contacts and hemidesmosome protein complexes in live cells	小林 裕美	皮膚科
Journal of the American Academy Dermatology 63(1):e8-10 (2010年7月)	Antidesmocollin-1 antibody-positive, antidesmoglein antibody-negative pemphigus herpetiformis	石井 正光	皮膚科
British Journal of Dermatology 163(2):428-430 (2010年8月)	Acrodermatitis continua of Hallopeau appearing at specific, high leucocyte counts	石井 正光	皮膚科
Dermatologic Therapy 23(5): 561-563 (2010年9-10月)	Therapeutic hotline. The effectiveness of intense pulsed light for possible Riehl's melanosis	鶴田 大輔	皮膚科
Journal of Dermatology 37(12):1068-1070 (2010年12月)	Importance of sentinel lymph node biopsy in Merkel cell carcinoma	加茂 理英	皮膚科
International Journal of Dermatology 49(12):1459-1461 (2010年12月)	Linear lupus erythematosus profundus on the face, following the lines of Blaschko	曾和 順子	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Experimental Dermatology 19(12):1067-1072 (2010年12月)	Strong exercise stress exacerbates dermatitis in atopic model mice, NC/Nga mice, while proper exercise reduces it	石井 正光	皮膚科
Cutis 87(1):41-43 (2011年1月)	Unilateral eyelid angioedema with congestion of the right bulbar conjunctiva due to loxoprofen sodium	鶴田 大輔	皮膚科
Medical Molecular Morphology 44(1): 27-33 (2011年3月)	Comparative study of the dynamics of focal contacts in live epithelial and mesenchymal cells	鶴田 大輔	皮膚科
Cardiovascular and interventional radiology (2010年8月)	Determinants of local progression after computed tomography-guided percutaneous radiofrequency ablation for unresectable lung tumors: 9-year experience in a single institution.	松岡利幸	放射線科
AJR. American journal of roentgenology (2011年3月)	Differentiating benign notochordal cell tumors from chordomas: radiographic features on MRI, CT, and tomography.	三木幸雄	放射線科
Oncology 79: 337-342; 2010 (2011年3月)	Phase II trial of S-1 plus low-dose cisplatin for unresectable and recurrent gastric cancer (JFMC27-9902 Step2)	仲田文造	腫瘍外科
日本臨床外科学会雑誌 71(11):2801-2804. (2010年11月)	黒色甲状腺に見られた甲状腺濾胞腺腫の一例	小野田尚佳	腫瘍外科
Oncology Reports 24:1637-1643,(2010年12月)	Transforming growth factor β signaling inhibitor, SB-431542, induces maturation of dendritic cells and enhances anti-tumor activity.	田中 浩明	腫瘍外科
Journal of Experimental Clinical Cancer Reserch 29:53, (2010年5月)	RNA interference suppression of mucin 5AC (MUC5AC) reduces the adhesive and invasive capacity of human pancreatic cancer cells.	田中 浩明	腫瘍外科
日本内視鏡外科学会雑誌 第15巻 第3号203-306, (2010年6月)	小腸病変に対する腹腔鏡補助下手術と術前ダブルバルーン小腸内視鏡検査の有用性	野田英児	腫瘍外科
British Journal of Cancer. 103:1182-91, (2010年10月)	Elevated dietary linoleic acid increases gastric carcinoma cell invasion and metastasis in mice.	八代正和	腫瘍外科
Clinical Cancer Research. 16(23):5750-8, (2010年12月)	Monoclonal Antibodies to Fibroblast Growth Factor Receptor 2 Effectively Inhibit Growth of Gastric Tumor Xenografts.	八代正和	腫瘍外科
Journal of Surgical Research (2010 年12月)	Role of the Stemness Factors Sox2, Oct3/4, and Nanog in Gastric Carcinoma.	八代正和	腫瘍外科
Cancer chemotherapy and pharmacology. 2010;66:745-753. (2010年9月)	Biodistribution of humanized anti-VEGF monoclonal antibody/bevacizumab on peritoneal metastatic models with subcutaneous xenograft of gastric cancer in mice.	八代正和	腫瘍外科
Cancer Science 2010;101:1846-1852. (2010年8月)	Combination effect of a TGF- β receptor kinase inhibitor with 5-FU analog S1 on lymph node metastasis of scirrhous gastric cancer in mice.	八代正和	腫瘍外科
Digestion. 2010;82:246-251. (2010年6月)	Expression of a hypoxia-associated protein, carbonic anhydrase-9, correlates with malignant phenotypes of gastric carcinoma.	八代正和	腫瘍外科
Anticancer research. 2010 Dec;30(12):5239-43. (2010年12月)	Clinical Significance of Vimentin-positive Gastric Cancer Cells.	八代正和	腫瘍外科
Anticancer research. 2010 Nov;30(11):4459-65. (2010年11月)	Proteomic differential display analysis shows up-regulation of 14-3-3 sigma protein in human scirrhous-type gastric carcinoma cells.	八代正和	腫瘍外科
J Exp Clin Cancer Res. 2010 Nov 17;29:149. (2010年11月)	Effects of valproic acid on the cell cycle and apoptosis through acetylation of histone and tubulin in a scirrhous gastric cancer cell line.	八代正和	腫瘍外科
Anticancer Research 30: 4115-4122, (2010年10月)	Significance of Keratinocyte Growth Factor Receptor in the Proliferation of Biliary Tract Cancer	天野良亮	腫瘍外科
日本臨床外科学会誌72(2), 483-489, (2011年2月)	総胆管に穿破し、閉塞性黄疸をきたした膵IPMNの1例	山田靖哉	腫瘍外科
癌と化学療法vol 37(12)2261-2263 (2010年11月)	局所進行再発食道癌に対するDocetaxel併用化学放射線療法	久保尚士	腫瘍外科
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 10(4):555-560 (2010年4月)	Closed cardiopulmonary bypass circuits suppress thrombin generation during coronary artery bypass grafting	末廣 茂文	心臓血管外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外科感染症学会雑誌 7(4):293-297 (2010年8月)	開心術後メチシリン耐性黄色ブドウ球菌縦隔炎に対する手術手洗い用スポンジ・低陰圧ポータブル吸引器を用いた持続陰圧吸引療法	佐々木 康之	心臓血管外科
Circulation Journal 74(8):1711-1717 (2010年8月)	Coadministration of Carvedilol Attenuates Nitrate Tolerance by Preventing Cytochrome P450 Depletion	平居 秀和	心臓血管外科
Journal of Heart Valve Disease 19(3):321-325 (2010年5月)	Considerations in Timing of Surgical Intervention for Infective Endocarditis with Cerebrovascular Complications	細野 光治	心臓血管外科
Free Radical Biology & Medicine 49,1534-1541(2010年11月)	carbon monoxide-releasing molecule CORM-3 suppresses vesicular endothelial cell SOD-1/SOD-2 activity while up-regulating the cell surface levels of SOD-3 in a heparin-dependent manner	西山 典利	呼吸器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery 58(10),538-41 (2010年10月)	Lung metastases from various malignancies combined with primary lung cancer	西山 典利	呼吸器外科
日本呼吸器外科学会雑誌 24(6),886-890 (2010年9月)	C-1期非小細胞肺癌症例における術前血中SLX値測定の意義	永野晃史	呼吸器外科
手術64(4)543-47 (2010年4月)	著明な呼吸機能の改善が得られた胃軸捻転を伴った食道裂孔ヘルニアの1手術例	大杉 治司	肝胆膵外科
日本気管食道科学会会報 61(2)132-133 (2010年4月)	エビデンスに基づく食道癌の治療成績 食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術298例の治療成績	李 榮柱	肝胆膵外科
医学のあゆみ233(8)589-594 (2010年5月)	胸腔鏡下食道癌根治術 精度の高い郭清を安全に行うために	大杉 治司	肝胆膵外科
手術64(5)679-83 (2010年5月)	食道バイパス術が有用であった食道癌化学放射線療法後食道気管瘻の1例	大杉 治司	肝胆膵外科
日本外科学会雑誌 111(5)editorial(2010年5月)	鏡視下手術がもたらしたもの	大杉 治司	肝胆膵外科
癌と化学療法37(7)1283-1286 (2010年7月)	食道癌におけるOrotate Phosphoribosyl Transferase(OPRT)、Dihydropyrimidine Dehydrogenase(DPD)活性と臨床病理学的因子との関連性の検討	大杉 治司	肝胆膵外科
癌と化学療法37(7)1297-1301 (2010年7月)	癌組織中Orotate Phosphoribosyl Transferase(OPRT)、Dihydropyrimidine Dehydrogenase(DPD)活性よりみた低分化型大腸癌に対する抗癌剤選択	大杉 治司	肝胆膵外科
エキスパートが伝える食道外科 up-to-date10-19(2010年8月)	食道の局所解剖	大杉 治司	肝胆膵外科
癌と化学療法37(9)1787-1790(2010年9月)	Nedaplatinを用いた術前化学療法によりSIADHを発症した胸部食道癌の1例	大杉 治司	肝胆膵外科
外科73(1)18-24(2011年1月)	食道亜全摘術	大杉 治司	肝胆膵外科
胸部外科64(1)31(2011年1月)	まい・てくにつく 術中食道損傷への対処	大杉 治司	肝胆膵外科
日本外科学会雑誌112(2)99-103(2011年3月)	胸腔鏡下手術	大杉 治司	肝胆膵外科
総合臨床59(4)666-674 (2010年4月)	臨床病理カンファレンス:膀胱癌	竹村 茂一	肝胆膵外科
肝臓 51(5)261-266 (2010年5月)	肝癌治療効果判定基準(2009年改訂版)	久保 正二	肝胆膵外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肝臓 51(10):591-598 (2010年10月)	肝臓治療ガイドライン改訂版(2009年度版) 外部評価の結果	久保 正二	肝胆膵外科
外科 72(12):1393-1396 (2010年11月)	先天性胆道拡張症	久保 正二	肝胆膵外科
総合臨床60(2):309-317 (2011年2月)	臨床病理カンファレンス:C型肝硬変	久保 正二	肝胆膵外科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 17(1):52-55 (2011年2月)	肝切除術におけるドレーン管理_肝切除術において腹腔ドレーンは必要か?_	久保 正二	肝胆膵外科
Journal of Hepato- Biliary-Pancreatic Sciences 17(3):291-295 (2010年5月)	Risk factors for postoperative recurrence of non-B non-C hepatocellular carcinoma	久保 正二	肝胆膵外科
Hepatology Research 40(7):686-692 (2010年7月)	Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver (RECICL) proposed by the Liver Cancer Study Group of Japan(2009 Revised Version)	久保 正二	肝胆膵外科
Journal of Hepato- Biliary-Pancreatic Sciences 17(3):349-358 (2010年4月)	Comparison of the outcomes between anatomical resection and limited resection for single hepatocellular carcinomas no larger than 5 cm in diameter: a single-center study	上西 崇弘	肝胆膵外科
Neurologia medico-chirurgica. 50(11):1001-1005 (2010年11月)	Protection of Anastomotic Pathways to the Vertebral Artery During Stenting of External Carotid Artery Stenosis	山縣 徹	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica. 50(11):1044-1049 (2010年11月)	Surgery of Spinal Nerve Sheath Tumors Originating From C1 or C2 of High Cervical Spine	高見俊宏	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica. 51(1):48-51 (2011年1月)	Pituitary apoplexy causing internal carotid artery occlusion--case report	長久 功	脳神経外科
整形外科61巻455-460(2010年5 月)	原発不明癌骨転移の臨床的問題点	星 学	整形外科
整形外科61巻1073-1076(2010年 9月)	大腸癌骨転移の整形外科的治療	星 学	整形外科
整形・災害外科53巻1329- 1333(2010年10月)	鎖骨転移で発見された原発不明の傍神経腫の1例	星 学	整形外科
中部日本整形外科学会 雑誌53巻677-678(2010年5月)	当院整形外科を受診した5例の食道癌骨転移	星 学	整形外科
中部日本整形外科学会 雑誌53巻927-928(2010年7月)	骨軟部腫瘍切除後の抗生剤投与	星 学	整形外科
整形外科専門医テキスト第15章 骨盤・股関節疾患709-711(2010年 6月)	骨盤・股関節の機能解剖	岩城 啓好	整形外科
整形・災害外科53(5)巻523- 530(2010年4月)	【インプラント感染 その予防と対策】インプラント感染の治療総論 ALACの基礎 抗 菌剤の徐放特性	岩城 啓好	整形外科
変形性股関節症 基本とUP TO DATE V章治療 D.THA D-2 162-168(2010年5月)	THAの進入方法	岩城 啓好	整形外科
変形性股関節症 基本とUP TO DATE V章治療 D.THA D-5 182-183(2010年5月)	高位脱臼に対するTHA	岩城 啓好	整形外科
Journal of Nephrology (2011年1月)	Low-grade albuminuria reduction with angiotensin II type 1 receptor blocker in renal transplant recipients.	内田潤次	泌尿器科
Urologia Internationalis 86(3):307- 314(2011年2月)	Clinical outcome of ABO-incompatible living unrelated donor kidney transplantation.	内田潤次	泌尿器科
Transplantation Proceedings 42(10):3998-4002(2010年12月)	Desensitization protocol in highly HLA-sensitized and ABO-incompatible high titer kidney transplantation.	内田潤次	泌尿器科
J Clin Oncol. 28(10):1727-32 (2010年4月)	Outcomes of fertility-sparing surgery for stage I epithelial ovarian cancer: a proposal for patient selection.	石河 修	産婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産婦人科の進歩 62巻2号 Page92-94 (2010年5月)	当科で管理した特発性血小板減少性紫斑病合併妊娠の検討	橋 大介	産婦人科
日本心療内科学会誌 14巻2号 Page112-17 (2010年5月)	心身相関のモデル 過敏性腸症候群 女性性に配慮した過敏性腸症候群の診療	石河 修	産婦人科
産婦人科の進歩 62巻3号 Page296-98 (2010年8月)	再発卵巣がんに対する治療方針決定のためのPET検査の意義	安井智代	産婦人科
臨床眼科(2010年9月)	スペクトラルドメイン光干渉断層計での黄斑部網膜内層厚(神経節細胞複合体厚)計測の再現性に関する検討	森脇光康	眼科学
臨床眼科(2010年11月)	Rosai-Dorfman病に合併したぶどう膜炎の1例	澤 明子	眼科学
あたらしい眼科(2011年2月)	トーリック眼内レンズ用リファレンスマーカーの試作	安宅伸介	眼科学
American Journal Ophthalmology (2010年4月)	Surgical procedure for correcting globe dislocation in highly myopic strabismus.	山口 真	眼科学
日本耳鼻咽喉科学会会報 114(2)84-89 (2011年2月)	片側顎下部に血管腫を生じた両側顎下腺欠損症の1例	井口広義	耳鼻咽喉科
Equilibrium Research(0385- 5716)70巻1号 Page23-29(2011 年.2月)	Joubert症候群の一例 眼球運動障害についての検討	角南貴司子	耳鼻咽喉科
ENTONISTストレスと耳鼻咽喉科疾患 No.121. 8-12 2011 (2010年11 月)	めまいとストレス	角南貴司子	耳鼻咽喉科
ラウンドミラー 28 pp.12-14、耳鼻 香川県地方部会、(2010年6月)	メニエール病への布石	山根英雄	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 2011; 131(5):469-473. (2011年3月)	Visualization and assessment of saccular duct and endolymphatic sinus.	山根英雄	耳鼻咽喉科
J Vestib Res 2010; 20 (3-4):230- 1. (2010年4月)	Blockage of endolymph by saccular otoconia in Meniere's disease.	山根英雄	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 2010; 130(2):233-239.. (2010年4月)	Blockage of reuniting duct in Meniere's disease	山根英雄	耳鼻咽喉科
Acta Anaesthesiologica Scandinavica 54(5): 596-602, 2010 (2010年5月)	Pleth variability index predicts hypotension during anesthesia induction	土屋 正彦	麻酔科
Palliative Care Research 5(2): 314-316, 2010(2010年8月)	くも膜下フェノールブロックと仙骨部神経根高周波熱凝固術が著効した旧肛門部痛の1例	舟尾 友晴	麻酔科
International Journal of Hematology 91(3):478-84(2010年 4月)	Heart rate variability during and after peripheral blood stem cell leukapheresis in autologous transplant patients and allogeneic transplant donors.	中前博久	血液内科
Acta Haematologica 124(3):171- 175(2010年10月)	Serum Cytokine Profiles at the Onset of Severe, Diffuse Alveolar Hemorrhage Complicating Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation, Treated Successfully with Pulse Intravenous Cyclophosphamide.	日野雅之	血液内科
診断と治療 98(9):1539-42 (2010年9月)	同種骨髄移植後の内臓播種性水痘帯状疱疹ウイルス感染症に合併した血球貪食症候群の診断に血清フェリチンが有用であった一例.	日野雅之	血液内科
癌と化学療法 37(9):1691-5 (2010年9月)	静注Busulfan (Busulfex) + Cyclophosphamide + Total Lymphoid Irradiationを用いた Modified Myeloablative Conditioningによる同種造血幹細胞移植.	中前博久	血液内科
血液フロンティア 20(12):2176-79 (2010年11月)	同種造血幹細胞移植後のリポソームアルブミンホテリシンB投与中に新規発症したトリコスボリン血症の一例.	日野雅之	血液内科
臨床血液 51(12):1775-80 (2010年12月)	同種造血幹細胞移植後の小腸穿孔で診断されたEpstein-Barr virus関連移植後リンパ増殖性疾患.	日野雅之	血液内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychiat Clin Neuros 64:293-298 (2010年4月)	Frontal hypoperfusion in depressed patients with dementia of Alzheimer type demonstrated on 3DSRT	塩見 進	核医学
Hepatol Res 40:853-861 (2010年9月)	Usefulness of transient elastography for assessment of liver fibrosis in chronic hepatitis B: regression of liver stiffness during entecavir therapy	塩見 進	核医学
肝臓 51:454-456 (2010年8月)	HBV関連クリオグロブリン血症における抗ホスファチジルセリン・プロトンピン複合体抗体の意義	塩見 進	核医学
核医学47巻3号(2010年9月)	撮影条件の異なる[11c]PiB PET画像JADNIと大阪市大のプロトコール	安宅鈴香	老年科・神経内科
AP. Jgeriatric Psy Nerology(2011年3月)	Pib-negative dementia—a possibility of misajagross of patient with non-Alzneiwers disease(PD)type dementia as naving	嶋田裕之	老年科・神経内科
Med Mol Morphol 2010; 130(6): 1624-1635. (2010年6月)	Comparative study of the dynamics of focal contacts between live epithelial cells and fibroblasts.	小澤俊幸	形成外科
Osaka City Med J 2010; 56: 5-10. (2010年6月)	Sentinel lymph node biopsy in conjunctival malignant melanoma at the lacrimal caruncle: a case report.	元村尚嗣	形成外科
形成外科 2010; 53巻増刊: S10. (2010年10月)	形成外科の治療指針update 2010:創処置総論:電撃症.	原田輝一	形成外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg 2011; 64: 201-208. (2011年2月)	Nostril suspension and lip adhesion improve nasal symmetry in patients with complete unilateral cleft lip and palate.	若見 暁樹	形成外科
Dermatol Surg 2011; 37: 263-266. (2011年2月)	Long term follow-up of a case of cheek hyperpigmentation associated with McCune-Albright syndrome treated with Q switched ruby laser.	小澤俊幸	形成外科
Radiology (2010年6月)	Hepatocellular carcinoma: hepatocyte-selective enhancement at gadoxetic acid-enhanced MR imaging—correlation with expression of sinusoidal and canalicular transporters and bile accumulation	若狭 研一	病理部
Calcified tissue international (2010年6月)	The levels of somatostatin receptors in causative tumors of oncogenic osteomalacia are insufficient for their agonist to normalize serum phosphate levels	若狭 研一	病理部
Gastrointestinal endoscopy (2010年7月)	Angioleiomyoma of the small intestine detected by double-balloon enteroscopy	若狭 研一	病理部
British Journal of Cancer (2010年7月)	Significance of E-cadherin expression in triple-negative breast cancer	若狭 研一	病理部
Oncology Reports (2010年9月)	Utility of 2-[18F] fluoro-2-deoxy-D-glucose positron emission tomography in differential diagnosis of benign and malignant intraductal papillary-mucinous neoplasm of the pancreas	若狭 研一	病理部
Journal of Magnetic Resonance Imaging (2010年10月)	Comparison of enhancement patterns of histologically confirmed hepatocellular carcinoma between gadoxetate- and ferucarbotran-enhanced magnetic resonance imaging	若狭 研一	病理部
European Radiology (2010年10月)	Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance images of hepatocellular carcinoma: correlation with histological grading and portal blood flow	若狭 研一	病理部
Surgery (2011年3月)	Prognosis of hepatocellular carcinoma with biliary tumor thrombi after liver surgery	若狭 研一	病理部
Acta Haematologica (2010年10月)	Serum cytokine profiles at the onset of severe, diffuse alveolar hemorrhage complicating allogeneic hematopoietic stem cell transplantation, treated successfully with pulse intravenous cyclophosphamide	大澤 政彦	病理部
日本集中治療医学会雑誌 (2011年1月)	アナフィラキシーショックによる心停止の一救命例	山村 仁	救急部
Intensivist (2010年7月)	腹部コンパートメント症候群/腹腔内圧上昇	溝端 康光	救急部

小計21

計186

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 原 充 弘
管理担当者氏名	庶務課長 川上悟・医事運営課長 豊田雅裕・薬剤部長 永山勝也・臨床工学部主査 松尾光則

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事運営課 薬 剤 部	診療録・エックス線写真・看護記録等については医療情報部で、処方せんについては薬剤部で保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課		
	高度の医療の実績	医事運営課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事運営課		
	高度の医療の研修の実績	庶務課		
	閲覧実績	庶務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事運営課		
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事運営課 薬 剤 部		
	項規 第則 一第 号一 条に 掲げ る十 一第 一 項各 号の 及び 第九 条の 二十 三第 一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	庶務課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	庶務課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	庶務課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	庶務課	
		専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	庶務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	庶務課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	庶務課	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	庶務課			

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病 院 の 管 理 に 関 する 諸 記 録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の 確 保 の 状 況	院内感染対策のための指針の策定状況	庶務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	庶務課
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 原 充 弘
閲覧担当者氏名	庶務課長 川上 悟・医事運営課長 豊田 雅裕
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医 師	延	0件
	歯科 医 師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	86.1 %	算定期間	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数	21,895人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	21,712人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	920人	
	D: 初診の患者の数	29,996人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>平成16年12月に改正した「大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理規程」において、医療安全管理に関する体制確保及び推進を図るために必要な事項を定めている。また、「大阪市立大学医学部附属病院安全管理に関する指針」において、患者の安全を確保し、高度で良質な医療を提供するために、本院における医療安全管理の体制の確保及び推進を図るために準拠すべき基本的事項を以下のとおり定めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用語の定義・公表基準 ○組織及び体制 ○院内報告制度 ○医療安全管理に関する教育・研修 ○医療事故発生時の対応 ○医療事故の調査を事故防止対策 ○医療安全相談窓口 <p>さらに、平成18年4月の改定で、独立行政法人化に伴う規程整備に加え、医療安全管理部の拡充、オンラインシステムについて定め、平成19年3月には主に公表基準の改定、平成21年5月の改訂では全体の文言の整合性を図った。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○院内の医療安全管理の検討及び推進に関すること ○医療安全管理等の情報に関すること ○医療事故の調査、審議及び改善策の検討に関すること ○その他、医療安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 26 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員を対象とした講演会等の実施（6回） ○部署別事例研修の開催（1回） ○新規採用の医師、看護師及び研修医に対し、医療安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な概念の研修会を開催（13回） ○医療従事者対象の診療用機器取扱いに関する講習会の開催（4回） ○厚生労働省推薦教材DVD研修（1回） ○全従業者を対象としたAED講習会の開催（1回） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p> <p>報告されたレポートについては、定期的リスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あて詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。</p>	

(様式第13-2)

また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。

一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任(10)名 兼任(7)名 医療に係る安全管理を行う部門として、副院長を部長・統括安全管理者とする医療安全管理部を設け、専任医師1名、専任安全管理者2名(看護師、薬剤師各1名)を中心として、各部署より選出されたリスクマネージャー81名並びに部長を補佐する部長代理2名、顧問4名を配置している。</p> <p>また医療安全管理部には、専任の感染管理者5名(看護師2名、医師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名)を配置して院内感染対策を実施し、さらに褥瘡管理者1名も配置している。</p> <p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的で開催し、医療安全管理の推進を図る。○医療安全管理に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。○医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的に関係マネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。○様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策規程」において、感染症の予防及び感染症の患者に対する必要な措置を定めるとともに、「大阪市立大学医学部附属病院院内感染防止対策指針」で感染対策の推進を行うための基本的事項を次のとおり定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の分類等 ・ 組織及び体制 ・ 感染対策に関する教育・研修 ・ 感染発生の報告 ・ 感染発生時の対応 ・ 感染の調査とその対策 ・ 指針の閲覧 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の感染に関する予防と処置に関すること ・ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正 ・ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る。実施後、検証し見直しを行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 58 回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用者に対する研修 ・ 全教職員を対象とした講演会の実施 ・ 医師、看護師、医療技術職員等、外来ボランティア、ナースエイド、清掃・洗濯委託業者を対象とした研修 ・ 感染対策マネージャー研修 ・ DVD研修 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所（大阪府知事・大阪市長）及び医療安全協議会長宛届出用紙を提出する。 専任感染管理者は必要な部門（病院長、医療安全協議会など）へ報告する。 ・ 医療安全協議会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。 ・ 感染情報の解析と管理 ・ 院内感染症のサーベイランス ・ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計 ・ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告 ・ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導 ・ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導 ・ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発 ・ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂 ・ 職業感染防止対策の実施 ・ ファシリティーマネジメント（施設管理）への関与 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①新規採用者研修（医師、看護師、医療技術職員など対象：H22年度12回実施） 医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催</p> <p>②静脈注射薬の取り扱い、麻薬の取り扱いについて（新規採用看護師対象 H22年度2回実施）</p> <p>③医薬品安全使用に関する説明会 「レジメンシステムと化学療法センターの運用」、「抗がん剤調製用医療材料の仕様変更に伴う研修会」（全職員対象 H22年度 各1回実施）</p> <p>④麻薬事故について（看護師長対象 H22年度 1回実施）</p> <p>⑤簡易懸濁法について（看護師、医療技術職員など対象H22年度 1回実施）</p> <p>⑥処方せんの書き方（臨床研究医対象 H22年度 1回実施）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有） ・ 無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>①内用・外用薬処方の方法、取扱い</p> <p>②注射薬の取扱い</p> <p>③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、 筋弛緩薬注射剤、特定生物由来製品、特定抗菌薬、定数配置している ハイリスク薬など）</p> <p>④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）</p> <p>⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）</p> <p>⑥服薬指導・与薬</p> <p>定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。 （病棟：月1回、診療科：年4回実施）</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有） ・ 無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>①注射オーダの指示変更時その都度薬剤を調剤し供給していたが、流速変更等において薬剤、薬剤量に変更が生じない場合、薬剤を供給せず認証ラベルのみ供給するようにした。</p> <p>②入院定時注射薬処方において輸液を含む個人別処方毎のセットの実施を行った。</p> <p>③隔日服用や曜日指定の処方において、処方日数誤入力防止のため、用法の表記を週1回【実日数を入力】とした。</p> <p>④フェントステープ（毎日貼替え）採用に伴う運用方法の検討</p> <p>1) 電子カルテシステムに正確に反映させるため、デュロテップパッチ（3日毎貼替）処方オーダの手順が複雑であり、毎日貼替製剤と確実に区別するため、デュロテップパッチを薬品選択した時、3日毎貼替えの用法のみが表示されるようにした。</p> <p>2) 3日毎貼替えや曜日指定等の薬品の処方時、注意喚起のため、薬品選択をするとwarning表示が出るようにした。</p> <p>3) 病棟の麻薬管理シートに「毎日貼替え」「3日毎貼替え」と押印することで注意喚起を促した。</p> <p>⑤リン酸Na補正液の採用。 リン酸Na補正液0.5mmol/mLを採用することにより、リン酸ニカリウム補正液1mEq/mLで問題となっていた高カリウム血症のリスクを回避した。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) ・ 1
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1～2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・シリンジポンプ・輸液ポンプについて使用者に対する定期研修会を実施した。また、新機種に更新された除細動装置・体外式ペースメーカーについても使用者に対して新規導入時の研修会を実施した。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の作成 (有) ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置、除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・その他(10品目以上)の医療機器について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、周知すべき内容については、各部門から選出された医療機器安全管理者に情報配信を行った。 2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報や注意喚起情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い医療安全管理部とこれらの対応策について協議したうえ情報の配信を行った。 3. 医療安全管理部から院内で発生した医療機器に関するインシデント情報を提供してもらい院内に周知すべき重要性の高い内容については、医療機器安全使用研修会等を通じて、院内スタッフに情報提供した。 4. 中央管理医療機器については、機器の老朽化や使用状況を鑑み更新計画を策定し、医療機器委員会に図って計画的かつ効果的な更新を実施した。 5. 中央管理医療機器については、院内情報Webで添付文書の閲覧を可能とした。 6. 新規購入医療機器の添付文書と取扱い説明書を臨床工学部でファイリングを行い、使用者から使用方法等の質問があった場合、これらの添付文書を参照しながら正しい使用方法を啓蒙している。 	